

週休 2 日工事
(土木工事・発注者指定方式) の
積算について

令和 3 年 12 月 (修正版)

大阪市水道局

工務部工務課技術監理担当

1. 適用

発注者指定方式による週休2日工事の積算について、補正方法及び設計変更は次のとおり取扱うものとする。

なお、本資料は土木工事に適用する。

2. 補正対象

直接工事費及び共通仮設費（積上げ分）に計上される単価のうち、以下に示す単価に対して週休2日工事の補正を適用した単価を使用する。

- ・ 労務費
- ・ 機械経費（賃料）
- ・ 土木工事市場単価
- ・ 土木工事標準単価

なお、「土木工事標準単価」については、「土木コスト情報」及び「土木施工単価」（以下「物価資料」）に掲載の単価を使用しており、補正済単価（同工種）が「物価資料」の両方に掲載されている場合は安価側の単価、一方の「物価資料」のみに掲載されている単価は当該単価とする。

また、見積単価は補正対象外とする。

3. 補正方法

前項の補正対象に対して、各々設定された「補正係数」を乗じることとする。また、補正係数は「4週8休以上」を適用する。

4. 算出例

（1）労務費

労務単価について週休2日工事の補正係数を乗じた単価を算出する。

（計算例）

1) 週休2日工事の補正（補正係数：1.05）

・ 普通作業員：19,000×1.05

$$= \underline{19,950 \text{ 円/人・日}}$$

2) 時間的制約を受ける労務補正（6%）と週休2日工事の補正（補正係数：1.05）

・ 普通作業員：19,000×1.06×1.05

$$= 21,147$$

$$= \underline{21,150 \text{ 円/人・日}}$$

※補正後単価は、10 円未満四捨五入

3) 夜間工事の労務補正 (50%) と週休 2 日工事の補正を行う場合 (補正係数: 1.05)

$$\cdot \text{普通作業員} : 19,000 \times 1.50 \times 1.05$$

$$= 29,925$$

$$= \underline{29,930 \text{ 円/人・日}}$$

※補正後単価は、10 円未満四捨五入

(2) 機械経費 (賃料)

機械経費 (賃料) について週休 2 日工事の補正係数を乗じた単価を算出する。

(計算例)

1) 週休 2 日工事の補正 (補正係数: 1.04)

・バックホウ (クローラ) [標準・クレーン機能付き] 山積 0.8m³

(平積 0.6m³) 2.9t 吊トラッククレーン (賃料) ※長期割引適用

$$: 10,270 \times 1.04$$

$$= 10680.8$$

$$= \underline{10.700 \text{ 円/日}}$$

※補正後単価は、有効数字 3 桁 (4 桁目四捨五入)

(3) 土木工事市場単価

土木工事市場単価について週休 2 日工事の補正係数を乗じた単価を算出する。土木工事市場単価に乗じる補正係数は別表 1 のとおり。

(計算例)

1) 週休 2 日の補正 (補正係数: 1.02)

週休 2 日の補正後単価 = 補正前単価 × 週休 2 日の補正係数

・インターロッキングブロック工 (設置、直線配置、100m² 以上、標準品、厚 6cm)

$$: 4,000 \times 1.02$$

$$= \underline{4,080 \text{ 円/m}^2} \quad \text{※小数第 2 位止め (第 3 位切捨て)}$$

2) 加算率・補正係数による割増と週休 2 日の補正 (補正係数: 1.02) を行う場合 (例: 夜間作業補正 (1.15) を行う場合)

週休 2 日の補正後単価 = (補正前単価 × 週休 2 日の補正係数) × 夜間作業補正係数

- ・インターロッキングブロック工（設置、直線配置、100m²以上、標準品、厚6cm）

$$\begin{aligned}
 & : (4,000 \times 1.02) \times 1.15 \\
 & = 4,080 \times 1.15 \\
 & = \underline{4,692 \text{ 円/m}^2} \quad \text{※小数第2位止め（第3位切捨て）}
 \end{aligned}$$

（４）土木工事標準単価

土木工事標準単価について週休2日工事の補正係数を乗じた単価（「物価資料」単価による）を適用する。

（５）施工パッケージ型積算方式の積算単価

上述（１）～（３）の方法による補正済の労務費・機械賃料・市場単価を用いて算出する。

（計算例）週休2日の補正（補正係数：1.02）

- ・コンクリート（無筋・鉄筋構造物、バックホウ（クレーン機能付）打設、21-8-25（20）（高炉）、一般養生、全ての費用）

標準単価：28,266 円

補正後積算単価：32,870 円

※積算単価は、有効数字4桁（5桁目切上げ）

項目	代表機労材規格	構成比 (%)	標準単価 (R2.4)	大阪単価 (R3.11基準)	補正対象	
機械 (K)		4.53	-	-		
	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第3次基準値）〕山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）吊能力2.9t 賃料	4.28	9,840	10,270	○
	K2		-	-		
	K3		-	-		
労務 (R)		37.78	-	-		
	R1	特殊作業員	11.31	24,600	21,600	○
	R2	普通作業員	10.72	21,500	19,000	○
	R3	運転手（特殊）	6.93	24,200	21,800	○
	R4	土木一般世話役	6.55	24,700	23,700	○
材料 (Z)		57.69	-	-		
	Z1	生コンクリート 高炉 21-8-25 (20)	55.69	14,700	19,400	
	Z2	軽油 1,2号 バトロール給油	1.89	116	124	
	Z3		-	-	-	
	Z4		-	-	-	
市場単価 (S)			-	-		
	S1		-	-		

積算単価P'の算出式

・標準単価： P

・機械賃料： K1t'、K2t'、K3t' ※賃料：週休2日補正対象

・労務費： R1t'、R2t'、R3t'、R4t'

・市場単価： S1t'

・構成比(%)： Kr、Rr、Zr、Sr

$$P' = P \times \left\{ \left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{Kr}{K1r+K2r+K3r} \right. \\ + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{Rr}{R1r+R2r+R3r+R4r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Zr}{Z1r+Z2r+Z3r+Z4r} \\ + \left(\frac{S1r}{100} \times \frac{S1t'}{S1t} \right) \times \frac{Sr}{S1r} \\ \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Sr}{100} \right\}$$

：週休2日工事補正後の値

週休2日工事の補正後単価

	代表機劣材規格	① 週休2日 補正值	② 補正前 積算単価	①×② 週休2日 補正単価	備考
K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第3次基準値）〕山積0.8m3（平積0.6m3） 吊能力2.9t 賃料	1.04	10,270	10,700	有効数字3桁 （4桁目四捨五入）
R1	特殊作業員	1.05	21,600	22,680	10円止め 円単位四捨五入
R2	普通作業員	1.05	19,000	19,950	
R3	運転手（特殊）	1.05	21,800	22,890	
R4	土木一般世話役	1.05	23,700	24,890	

週休2日工事補正後の積算単価（P'）の計算式

$$P' = 28,266 \times \left\{ \left(\frac{4.28}{100} \times \frac{10,700}{9,840} \right) \times \frac{4.53}{4.28} \right. \\ + \left(\frac{11.31}{100} \times \frac{22,680}{24,600} + \frac{10.72}{100} \times \frac{19,950}{21,500} + \frac{6.93}{100} \times \frac{22,890}{24,200} \right. \\ + \left. \frac{6.55}{100} \times \frac{24,890}{24,700} \right) \times \frac{37.78}{11.31+10.72+6.93+6.55} \\ + \left(\frac{55.69}{100} \times \frac{19,400}{14,700} + \frac{1.89}{100} \times \frac{124}{116} \right) \times \frac{57.69}{55.69+1.89} \\ \left. + \frac{100 - 4.53 - 37.78 - 57.69}{100} \right\}$$

= 32,861.8

= 32,870

：週休2日工事補正後の値

(6) 共通仮設費率

共通仮設費率について施工地域補正等補正後の共通仮設費率に対して、週休2日工事の補正係数を乗じた共通仮設費率を算出する。

(計算例)

施工地域補正（大都市 1.50）及び週休2日工事の補正（補正係数：1.04）

を適用する場合（開削工事及び小口径推進工事、共通仮設費対象額：10,000,000円とする）

・ 共通仮設費率（補正前）：13.32%

・ 共通仮設費率（補正後）：

$$[13.32\% \times 1.50 \text{ (施工地域補正係数)}] \times 1.04$$

$$= 19.980 \times 1.04$$

$$= 19.98 \times 1.04 \quad \text{※小数第2位止め（第3位四捨五入）}$$

$$= 20.7792$$

$$= \underline{20.78\%} \quad \text{※小数第2位止め（第3位四捨五入）}$$

（7）現場管理費率

現場管理費率について施工地域補正等補正後の現場管理費率に対して、週休2日工事の補正係数を乗じた現場管理費率を算出する。

（計算例）

施工地域補正（大都市 1.20）及び週休2日工事の補正（補正係数：1.06）を適用する場合（開削工事及び小口径推進工事、現場管理費対象額：10,000,000円とする）

・ 現場管理費率（補正前）：37.79%

・ 現場管理費率（補正後）：

$$[37.79\% \times 1.20 \text{ (施工地域補正係数)}] \times 1.06$$

$$= 45.348 \times 1.06$$

$$= 45.35 \times 1.06 \quad \text{※小数第2位止め（第3位四捨五入）}$$

$$= 48.071$$

$$= \underline{48.07\%} \quad \text{※小数第2位止め（第3位四捨五入）}$$

5. 設計変更

現場閉所の達成状況が4週8休に満たない場合は、精算時に補正分の減額変更を行う。

(別表1)

名 称	区分	補正係数		
		4週6休以上 4週7休未満	4週7休以上 4週8休未満	4週8休以上
鉄筋工		1.01	1.03	1.05
ガス圧接工		1.01	1.02	1.04
インターロッキングブロック工	設置	1.00	1.01	1.02
	撤去	1.01	1.03	1.05
防護柵設置工（ガードレール）	設置	1.00	1.01	1.01
	撤去	1.01	1.03	1.05
防護柵設置工（ガードパイプ）	設置	1.00	1.01	1.01
	撤去	1.01	1.03	1.05
防護柵設置工（横断・転落防止柵）	設置	1.01	1.03	1.04
	撤去	1.01	1.03	1.05
防護柵設置工（落石防護柵）		1.00	1.01	1.02
防護柵設置工（落石防止網）		1.01	1.02	1.03
道路標識設置工	設置	1.00	1.01	1.01
	撤去・移設	1.01	1.03	1.04
道路付属物設置工	設置	1.00	1.01	1.02
	撤去	1.01	1.03	1.05
法面工		1.00	1.01	1.02
吹付砕工		1.01	1.02	1.03
鉄筋挿入工（ロックボルト工）		1.01	1.02	1.03
道路植栽工	植樹	1.01	1.03	1.05
	剪定	1.01	1.03	1.05
公園植栽工		1.01	1.03	1.05
橋梁用伸縮継手装置設置工		1.00	1.01	1.02
橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工		1.01	1.02	1.04
橋面防水工		1.00	1.01	1.02
薄層カラー舗装工		1.00	1.00	1.01
グルーピング工		1.00	1.01	1.01